

学校・地域への普及について（発言概要）

西牟婁地方教育事務所 口井 浩

1 学校への普及と推進について

- 1) 西牟婁地方情報教育推進協議会の活動について
- 2) デジタルコンテンツ研究協力校の取組について
- 3) 情報教育推進支援教員配置事業の活用について

【概要】西牟婁地方では、本年度から情報教育推進のため西牟婁地方情報教育推進協議会を立ち上げた。この組織では、市町村教育委員会の情報教育事務担当者と第4ブロック県立高等学校の情報教育担当者に集まっていたいただき、当地方のデジタルコンテンツの活用高度化事業や情報教育研修会について意見交換をおこなった。また、デジタルコンテンツの活用高度化事業については管内各市町村から8校協力いただき授業公開やブロック研究会で密接な交流を行った。とりわけ5校の複式校では互いに学校を訪問し授業研究を進めることで、複式校での実践課題を共有することができた。また、別のある学校では、情報教育推進支援職員の配置を活用しながら校内での研究を推進した。

2 地域への普及について

- 1) 学校・教職員が果たす役割
- 2) 公民館等生涯学習関連施設が果たす役割
- 3) 地域での取組

【概要】西牟婁地方には84の小中学校があり、小学校では56校のうち半数以上の学校が6学級以下の小規模校である。また、市町村の中心地から離れた山間部、海岸部に学校が多いことも特徴であり、そのような地域で文化継承やIT推進などに学校が果たす役割は多いし大きい。情報教育分野でも、学校が、児童生徒を通じて保護者に情報機器の操作技能の伝達を行ったり、教職員が公民館等の講座の講師となって地域住民に最新のデジタル分野の情報を提供したり情報モラルの意識向上を図ったりするなど、担う役目もさまざまである。

一方、中心地から離れているために、さまざまな問題もある。ITは我々に結果として大きな恩恵を与えるが、その過程では、教育現場での機器整備、高速インターネットの整備や光ケーブルの敷設など、地理的経済的条件が「情報格差」となって表れがちである。

田辺市上秋津の「秋津野塾」<http://akizuno.net/>での地域活動は、ITが地域活動にどう貢献できるかを考えるうえで多くの示唆を与えてくれる。

3 デジタルコンテンツの活用高度化事業の成果について

- 1) 串本町立出雲小学校等での取組
- 2) 田辺市立伏菟野小学校等での取組
- 3) 小学校・中学校が連携した取組
- 4) 継続して発展させるための課題

【概要】串本町立出雲小学校では、情報教育の系統的なカリキュラムを作成し全校あげて情報教育の推進に取り組んでいる。また、串本町情報教育担当者会でデジタルコンテンツの授業研究を提案、複式校が協力をして研究授業や授業公開を行い実践研究を進めた。町内の小中学校にもデジタルコンテンツを活用した授業が広がっている。田辺市立伏菟野小学校では、行政や地域住民の方々の協力のもと校内LANを整備、研究授業を市内に公開したり、田辺市情報教育担当者会で実践研究を提案発表した。今では、頻繁にデジタルコンテンツを活用した授業が行われている。

すさみ町立佐本小中学校では小学校と中学校が一体となっている利点を活かし、小中教職員の情報リテラシーの向上と児童生徒の情報教育の推進が総合的に推進されている。また、中学校の生徒が隣接した小学校に出向き、小学校の児童にパソコンの指導をしている事例がある。

西牟婁地方では、各市町村に協力校を指定したことで、「デジタルコンテンツを活用した授業」は特別な授業ではなくなっており多くの学校に認知されたと思われる。

今後、設備面での条件整備は、行政が最大限の推進を行う必要がある。学校では、社会教育、地域住民の方々に協力しながら、また協力をいただきながら多角的、多面的な情報教育の推進を行う基本姿勢の確立が急務である。

平成15年度には、本年度の成果を受けて、当地方すべての学校でデジタルコンテンツを活用した授業を普及させたい。また、小中が連携して情報教育の推進を図るとともに、情報教育推進協議会を基盤に学校間の交流を中心にした実践研究を継続する。特に、高等学校との協力体制は一層強化を図る。